

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 13 日現在

機関番号：32615

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370367

研究課題名(和文) 西洋古典文学における死生観表現の源流と展開に関する文献学的・比較作品論的研究

研究課題名(英文) A Philological and Comparative-Literary Study on the Origins and Developments of the Expression of the View on Life and Death in Western Classical Literature

研究代表者

佐野 好則 (SAN0, Yoshinori)

国際基督教大学・教養学部・教授

研究者番号：50295458

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は文献学的基础調査に立脚して、主要作品の死生観を表現の観点から解明した。死生観表現の源流については、『イーリアス』の登場人物が語るパラダイグマ(例話)群、『オデュッセイア』第22歌における求婚者殺戮場面に関して、他方死生観表現の展開については、ヘロドトス『歴史』第1巻のクロイソスとソロンの会見場面、諸作品にみいだされるセイレーンの描写に関して、文献学的・比較作品論の観点からの実証的研究を実施し、成果を口頭発表および論文により公表した。

研究成果の概要(英文)：This research project elucidated views of life and death in major works in respect of expressions, based on philological foundational research. Representative texts were examined from philological and comparative-literary perspectives: (as for origins of these expressions) paradigmatic stories spoken by characters in the Iliad, the deaths of the suitors in Odyssey 22, (as for developments of these expressions) the meeting scene of Croesus and Solon in Herodotus' Histories I, and depictions of the Sirens in various works. The results of these researches were made public through conference presentations and academic articles.

研究分野：西洋古典学。特に古典ギリシア叙事詩・抒情詩・演劇、およびその受容史

キーワード：西洋古典文学 文献学 比較文学 死生観 『イーリアス』 『オデュッセイア』 ヘロドトス セイレーン

1. 研究開始当初の背景

(1)本研究の文献学的基礎調査の領域に関しては、従来の研究において、『イーリアス』・『オデュッセイア』を中心とする初期ギリシア詩の叙述技法の基礎的な研究の蓄積は十分にあること、そしてその基礎に立脚して死生観表現の観点から作品論研究を展開する可能性が開かれていることが認識された

(2)本研究の応用的領域のうち、ホメーロス叙事詩における死生観表現の源流の分野に関しては、『イーリアス』・『オデュッセイア』それぞれにおける死生観に関する研究の十分な蓄積がある。他方、表現形式に注目することにより新たな観点からホメーロス叙事詩における死生観の理解を進展させる余地があることが認識された。

(3)本研究の応用的領域のうち、死生観表現の展開に関する分野については、ホメーロス叙事詩の受容史に関する十分な研究の蓄積があるが、死生観表現に注目して比較文学的視点から代表的作品の作品論研究に新たな貢献をする余地があることが認識された。

2. 研究の目的

(1)本研究の文献学的基礎調査の領域においては、『イーリアス』・『オデュッセイア』およびその他の初期ギリシア古典詩における様々な叙述技法に関して、近年の代表期な研究を参照して研究動向を把握すること、そしてこれらの技法が用いられている箇所について、各種校訂版や注釈書を参照して文献学的な基礎調査を施すことにより、実証的な作品論研究のために必要な基盤を整えることが目的として設定された。

(2)本研究の応用的領域のうち、ホメーロス叙事詩における死生観表現の解明の分野については、文献学的基礎調査に基づいて、両叙事詩の比較の観点も含めた作品論的検討を進め、従来の研究において注目されなかった表現の観点から両叙事詩の死生観を実証的に明らかにすることが目的として設定された。『イーリアス』の登場人物が語る過去の人物に関するパラダイグマ(例話)群、および『オデュッセイア』第22歌における求婚者殺害場面を重点研究対象とした。

(3)本研究の応用的領域のうち、死生観表現の展開に関する分野については、ギリシア悲劇作品を重点研究対象とした。従来のホメーロス叙事詩受容史研究を参照しつつ、ギリシア悲劇作品における死生観表現を比較文学的・比較作品論的観点から検討することが目的として設定された。

3. 研究の方法

(1)ホメーロス叙事詩研究を中心とする初期ギリシア詩の文献学的基礎調査の領域に

いては、必要な参考文献のうち国内の研究機関で閲覧・複写できないものに関してオックスフォード大学ボドレー図書館への研究旅行を実施して、文献調査および複写・収集を行った。またこの領域での研究方法について、オックスフォード大学所属の研究協力者である Malcolm Davies 教授と研究会議を開催してアドバイスを得た。

(2)ホメーロス叙事詩における死生観表現の源流の分野の重点研究対象のうち『イーリアス』の登場人物による過去の人物に関するパラダイグマ(例話)群については、個々のパラダイグマに関する従来の研究を参照しつつ、物語中の人物の生と死と『イーリアス』のメインプロットにおける主要人物の生と死との間の類似点と相違点に関して総合的に分析・検討を進めた。またもう一つの重点研究対象である『オデュッセイア』第22歌の求婚者殺害場面については、そこに頻繁にみいだされる『イーリアス』の戦闘場面と共通の表現を把握し、『イーリアス』における英雄たちの死との対比において『オデュッセイア』における求婚者たちの死がどのように描写されているかについて分析・検討を進めた。この作業に必要な参考文献のうち国内の研究機関で閲覧・複写できないものに関してオックスフォード大学ボドレー図書館への研究旅行を実施して、文献調査および複写・収集を行った。またこの分野での研究方法について、海外研究協力者である Malcolm Davies 教授および Patrick Finglass 教授との研究会議を開催してアドバイスを得た。

(3)死生観表現の展開の分野に関しては、海外研究協力者である Stephen Harrison 教授および Philip van der Eijk 教授との研究会議を開催してアドバイスを得た。これらのアドバイスにより、ヘーロドトス『歴史』第1巻におけるクロイソスとソローンの会見場面が新たな重点研究対象として設定された。この場面で表明される死生観表現について、従来の研究を参照しつつ、ホメーロス叙事詩以来の詩の伝統、特にソローンの詩の断片との比較を含め分析・検討を進めた。また諸作品におけるセイレーンの描写の比較をもう一つの重点研究対象とした。『オデュッセイア』第12歌、エウリーピデースの悲劇『ヘレネー』、さらにはプラトンの哲学対話篇『ポリテイア』第10巻、ヘレニズム文学のアポローニオス・ロディオス作『アルゴナウティカ』にセイレーンの描写がみいだされるが、それぞれの箇所についての従来の研究を参照しつつ、セイレーンの描写における伝統と革新を各作品の文脈との関連において分析・検討した。以上の作業に関して必要となる文献のうち、国内で入手不可能なものについては、オックスフォード大学ボドレー図書館にて文献調査および閲覧・複写を行った。

4. 研究成果

(1) 本研究の文献学的基礎調査の領域に

しては、まずホメロス叙事詩の文献学的研究の近年の動向を調査した。その成果の一部として(書評)「M. L. West, *The Making of the Odyssey*」を出版した。また叙事詩と悲劇との橋渡しをした合唱抒情詩の文献学的研究の近年の動向を調査した。その研究成果の一部として(書評)「M. Davies & P. J. Finglass, *Stesichorus: The Poems*」を出版した。さらに近年のホメロス叙事詩研究の動向のサーヴェイを行い、その成果として論文「ホメロス問題 口誦詩理論と新分析論を中心に」を完成した。この論文は共著研究書『ホメロス『イリアス』への招待』の第二章として2017年度半ばにピナケス出版より出版されることが確定している。この論文の学説史上の特徴は、口誦詩理論と新分析論の検討を通して、叙事詩の伝統的な要素を用いつつ伝統を超える詩人の創造性のありかを示唆した点にある。

(2) ホメロス叙事詩における死生観表現の分野に関する重点研究対象の一つである『イリアス』におけるパラダイグマについての成果として論文「パラダイグマ(例話)」を完成した。この論文は共著研究書『ホメロス『イリアス』への招待』の第七章として2017年度半ばにピナケス出版より出版されることが確定している。この論文においては、パラダイグマとして語られる物語群が、『イリアス』のプロット展開の中で果たしている機能を包括的に明らかにした点が学説史上の貢献となっている。またこの分野のもう一つの重点研究対象である『オデュッセイア』第22歌の求婚者殺戮場面については国際シンポジウムにおける英語による発表“Deaths of Heroes in the *Iliad* and Deaths of the Suitors in *Odyssey* 22”を行い、また別の研究会において日本語による発表を行った。これらの発表における質疑応答によって得られた知見も含めて論文「『オデュッセイア』第22巻の求婚者殺戮場面再考 特にアンティノオスの死(8-21)とエウリュマコスの死(69-88)をめぐって」を出版した。これらの口頭発表および論文における学説史上の貢献は、『イリアス』の戦闘場面と共通の表現を用いて求婚者たちの殺害が描写されることにより、一方では『イリアス』の英雄たちの死と求婚者たちの死との表面的な類似性が、他方では両者の間の根本的な相違が強調される効果が得られたことを実証的にあきらかにしたことである。さらにこの論文を発展させて英語論文を2017年度中の出版を目指して執筆中である。

(3) 死生観表現の展開に関する分野については、ヘーロドトス『歴史』第1巻のクロイソスとソローンの会見場面における死生観表現について国際シンポジウムにおいて英語による口頭発表を行った。その場での質疑応答によって得られた知見も含めて英語による論文“The Meeting of Croesus and Solon in Herodotus' *Histories* I”を完成

した。この論文は、現在 C&T Clark 社と出版交渉中の共著 *History and Historicity* の一つの章として出版される予定である。この論文の学説史上の貢献は、ヘーロドトスによって描かれるソローンの死生観が、ソローンの詩『ムーサたちへのエレゲイア』(13W)からの影響が強いという近年の説を、テキストの詳細な検討によって補強した点にある。また『オデュッセイア』、エウリーピデース『ヘレネー』、プラトーン『ポリーティア』、アポロニオス・ロディオス『アルゴナウティカ』におけるセイレーンの描写の比較に関して国際シンポジウムにおける英語による口頭発表“The Allure of the Sirens: Ancient Greek Texts, Iconography, and Beyond”を行った。この発表の学説史上的特徴は、セイレーンの描写がそれぞれの作品の文脈を色濃く反映していることを示唆したところにある。この口頭発表の内容については2017年度中の出版を目指して論文執筆作業を進めている。さらに、この分野の関連成果として口頭発表「デルポイのアポロン讃歌碑文について」を行った。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計3件)

佐野好則, (書評)「M. Davies & P. J. Finglass, *Stesichorus: The Poems*」, 『西洋古典学研究』, 査読無, 65巻, 2017年, pp. 95-98.

佐野好則, (書評)「M. L. West, *The Making of the Odyssey*」, 『西洋古典学研究』, 査読無, 64巻, 2016年, pp. 129-131.

佐野好則, 「『オデュッセイア』第22巻の求婚者殺戮場面再考」, 『フィロロギカ』, 査読有, 10巻, 2015年, pp. 1-13.

〔学会発表〕(計5件)

Yoshinori Sano, “The Allure of the Sirens: Ancient Greek Texts, Iconography, and Beyond”, 国際シンポジウム “Liminal Existence in Art and Literature”, 2016年11月12日, 国際基督教大学(東京都, 三鷹市).

佐野好則, 「デルポイのアポロン讃歌碑文について」, ギリシア・ローマ古典を学ぶ会, 2016年3月26日, 国際基督教大学高等学校(東京都, 小金井市).

Yoshinori Sano, “Meeting of Croesus and Solon in Herodotus' *Histories* I”,

国際シンポジウム "History and Historicity", 2015年12月16日, 国際基督教大学(東京都三鷹市).

Yoshinori Sano, "Deaths of Heroes in the *Iliad* and Deaths of the Suitors in *Odyssey 22*", 国際シンポジウム "The Processes of Dying in the Ancient Greek World", 2014年9月1日, 関西セミナーハウス(京都府, 京都市).

佐野好則, 「『オデュッセイア』第22巻の求婚者殺戮場面再考 特にアンティノオスの死(8-21)とエウリュマコスの死(69-88)をめぐって」, 古典文献学研究会研究集会, 2014年10月18日, 名城大学(東京都, 世田谷区).

〔図書〕(計 1 件)

川島重成/古澤ゆう子/小林薫(編), 佐野好則他 12名(共著), ピナケス出版, 『ホメロス『イリアス』への招待』, 2017年半ば出版予定, 佐野担当第二章「ホメロス問題 口誦詩理論と新分析論を中心に」 pp.49-67, 第一七章「パラダイグマ(例話)」 pp.515-539.

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

取得状況(計 0 件)

〔その他〕

ホームページ等

ICU 基督教と文化研究所公開講演履歴

<http://subsite.icu.ac.jp/icc/lecsicc.html#lctr2015>

"Liminal Existence in Art and Literature"

<http://web.icu.ac.jp/cgs/2016/11/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

佐野好則 (SANO, Yoshinori)

国際基督教大学・教養学部・教授

研究者番号: 50295458

(2) 研究分担者 該当なし

(3) 連携研究者 該当なし

(4) 研究協力者

Malcolm Davies

オックスフォード大学・The Classics Faculty・教授

Stephen Harrison

オックスフォード大学・The Classics Faculty・教授

Patrick Finglass

ノッティンガム大学・Department of Classics・教授

Philip van der Eijk

ベルリン・フンボルト大学・Institute für Klassische Philologie・教授